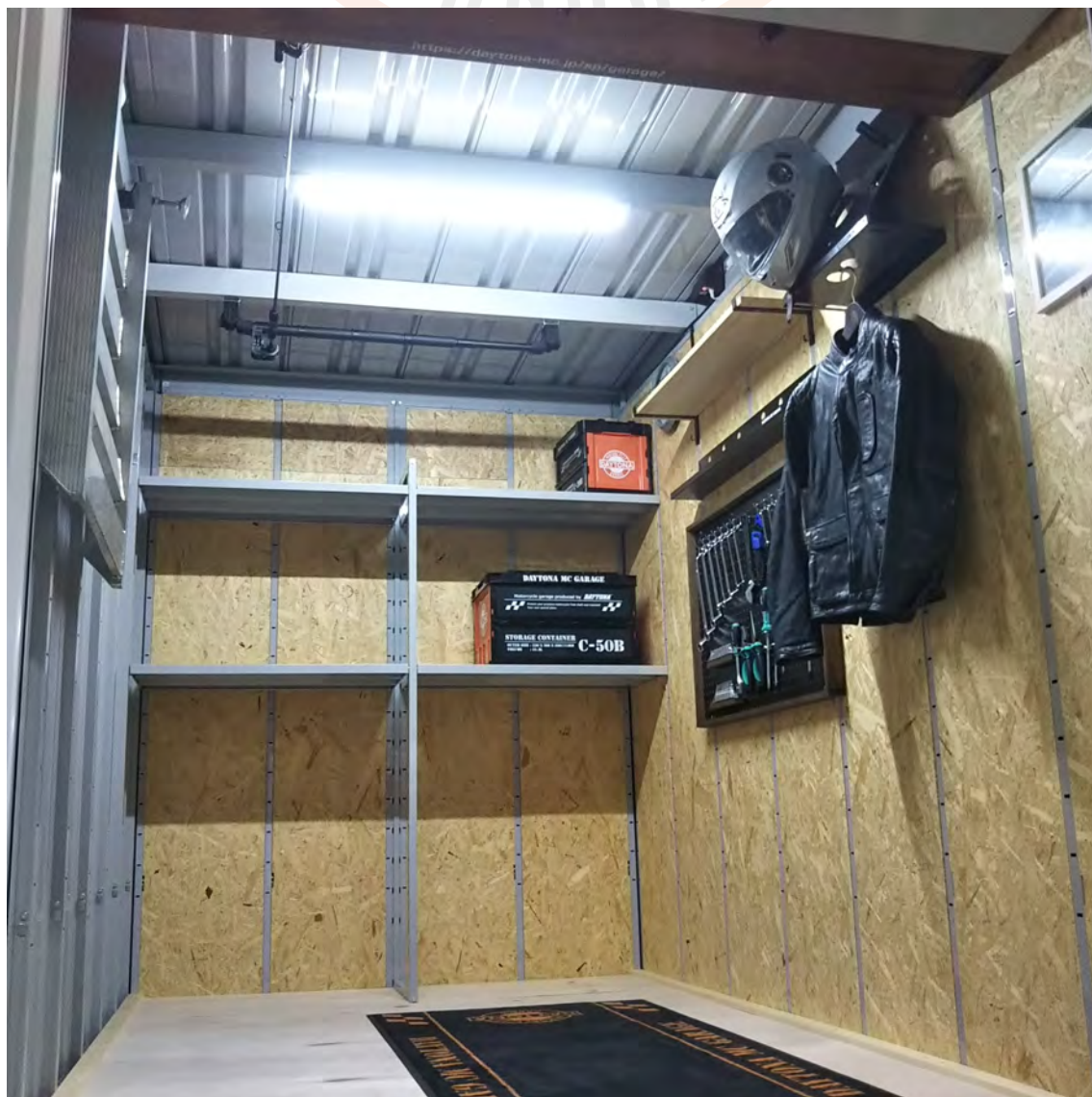


DIY施工例のご紹介

ホームセンターの材料で造る DIY内装



DAYTONA MC GARAGE



DIY施工例のご紹介

■デイトナガレージをDIYでカスタマイズしよう！

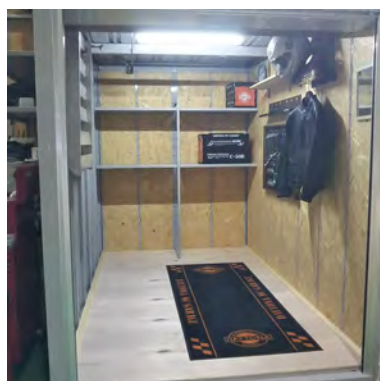
デイトナデモガレージで施工した内装のDIYを、ブログで公開しております。
モーターサイクルショーの展示ガレージもホームセンターの材料でDIYしました。
今回そんなDIYの一例をご紹介します。

◆「床板張り」・・・荷重分散
床板のキシミ音の軽減
木材による調湿効果で結露の軽減にも効果的

◆「壁板張り」・・・断熱効果
防音効果
見た目もグーンと変わってガレージへの愛着も増します

DIYで自分だけの秘密基地を造っていきましょう！

※残念ながら内装キットの販売予定はございません。



DAYTONA MC GARAGE

内装DIY施工例<床編>

■合板12mm材の床板張り <DBS-1830Hの場合>

※詳細はブログをご覧ください。

難易度:★

丸ノコ、インパクトドライバー等の電動工具があれば比較的簡単に施工が可能。
荷重分散、キシミ音軽減、調湿効果があるのでオススメ。
電動工具がない場合はホームセンターのカットサービスを利用するのもアリです。

材
料
を
調
達



ホームセンターで材料を購入。

- ・合板 910×1,820×12mm 4枚
- ・赤松胴縁 15×45×2,985mm 2本
- ・木ネジ 3.8×25mm 適量

合板やコンパネがオススメです。※OSB材は水に弱く、床材には不向き。

カ
ツ
ト
&
仮
置
き



次ページの参考寸法図を元に、合板をカットします。
数ミリの誤差はありますので、必ずガレージの寸法を測ってください。

念のため、合板の寸法が910×1,820mmか確認してください。
まれに寸法が違う板もありますのでご注意ください。



カットした合板を、奥から順番に置いていきます。
この時、隙間ができないように詰めてください。

合板にはそれぞれ反りがあり、板の境目に段差ができてしましますが、次の作業で
きれいに揃えていきます。

固
定



続いて赤松胴縁を両端に仮置きしてネジ位置のしるしを付け、ドリルで下穴を開けます。
下穴を開けたら木ネジで固定していきます。

合板12mm+赤松胴縁15mm=27mm、木ネジ=25mmなのでガレージの床を
傷めることもありません。

木ネジを打ち込むにはインパクトドライバーが便利です。

お持ちでない方は、ホームセンターの有料レンタル工具等をご利用ください。



この時、赤松胴縁がシャッターレールの内側に当たるようにしてください。
この固定により、オートバイの出し入れの際の合板のズレを防止できます。

たまたまですが近所のホームセンターで購入した赤松胴縁2,985mmが
DBS-1830Hにはぴったりサイズで、カット不要でした。

完
成
!

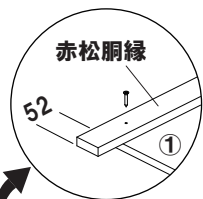


完成です。
連結したことによりひと続きの大きな床板のようになりました。

床板張りは荷重分散のほか、床板のキシミ音の軽減、木材による調湿効果で
結露の軽減にも効果的です。

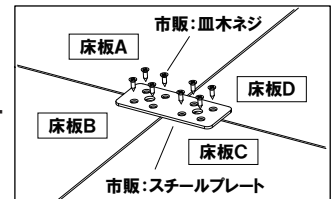
■デイトナガレージ床板 参考寸法図

ホームセンターで販売している通称「サブロク板 (910×1,820×12mm)」の合板を敷く場合の
カット寸法の一例をご紹介します。 **必ず実際のガレージの寸法を測ってください。**
カット後は奥から順に合板の隙間が無いよう全体の位置を調整し、赤松胴縁で連結します。

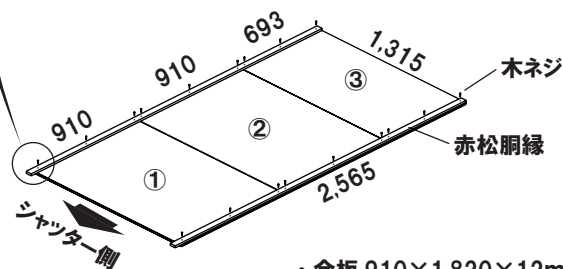


※シャッター側の赤松胴縁の
飛び出し量はどのモデルも
52mmとなります。

※DBS-2226L/H以上のガレージは
中央部の複数の床板を市販のスチール
プレートと皿木ネジで連結し段差を無くす
ことをオススメします。

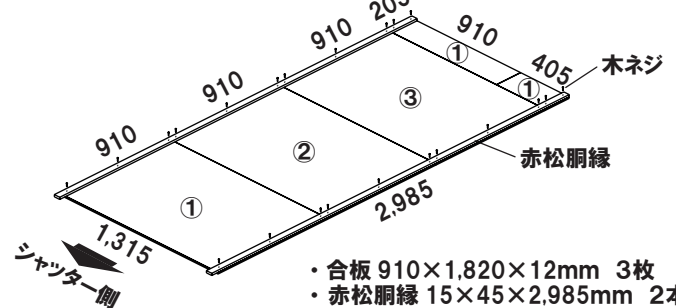


■DBS-1426L/1426H



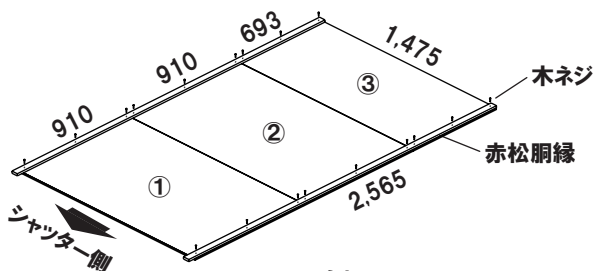
- ・合板 910×1,820×12mm 3枚
- ・赤松胴縁 15×45×2,565mm 2本
- ・木ネジ 3.8×25mm 適量

■DBS-1430L/1430H



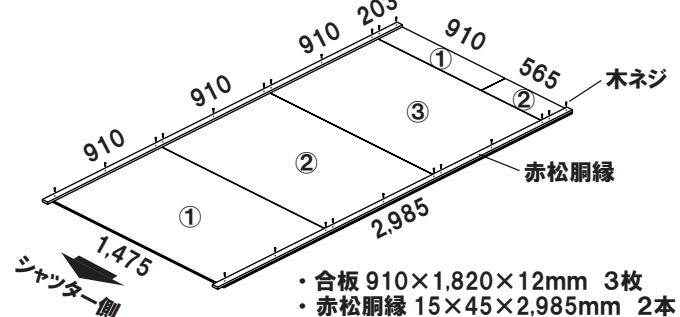
- ・合板 910×1,820×12mm 3枚
- ・赤松胴縁 15×45×2,985mm 2本
- ・木ネジ 3.8×25mm 適量

■DBS-1526L/1526H



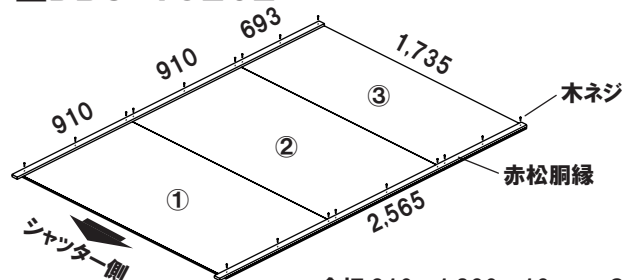
- ・合板 910×1,820×12mm 3枚
- ・赤松胴縁 15×45×2,565mm 2本
- ・木ネジ 3.8×25mm 適量

■DBS-1530L/1530H



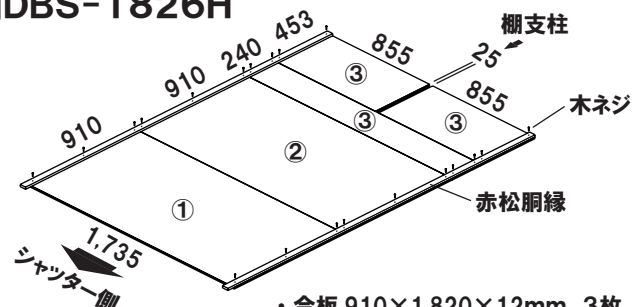
- ・合板 910×1,820×12mm 3枚
- ・赤松胴縁 15×45×2,985mm 2本
- ・木ネジ 3.8×25mm 適量

■DBS-1826L



- ・合板 910×1,820×12mm 3枚
- ・赤松胴縁 15×45×2,565mm 2本
- ・木ネジ 3.8×25mm 適量

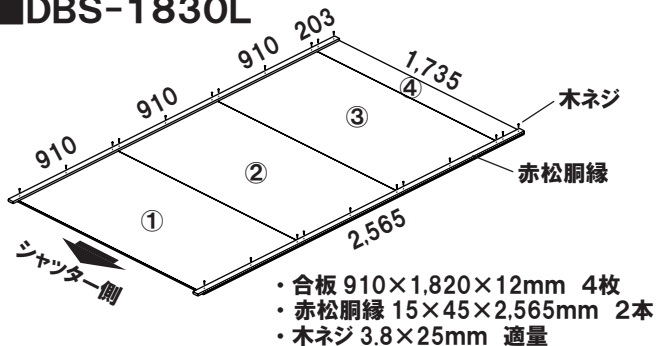
■DBS-1826H



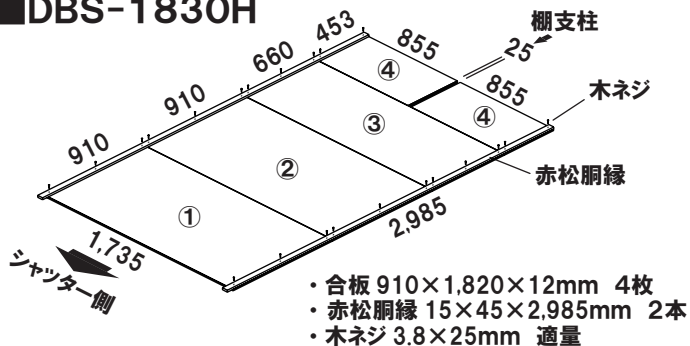
- ・合板 910×1,820×12mm 3枚
- ・赤松胴縁 15×45×2,985mm 2本
- ・木ネジ 3.8×25mm 適量

内装DIY施工例<床編>

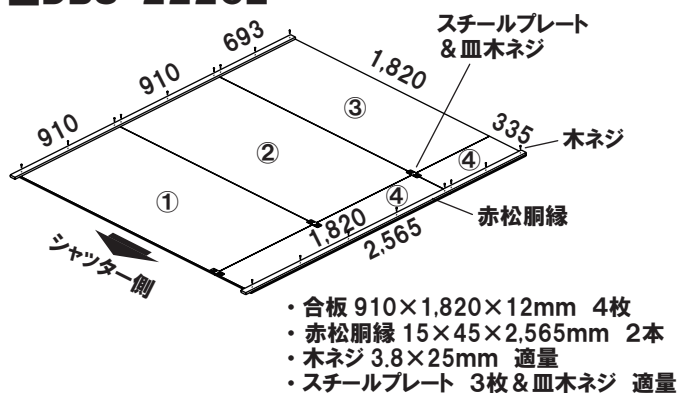
■DBS-1830L



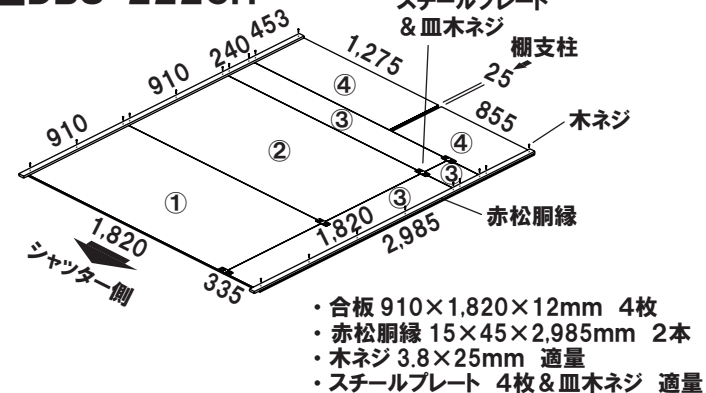
■DBS-1830H



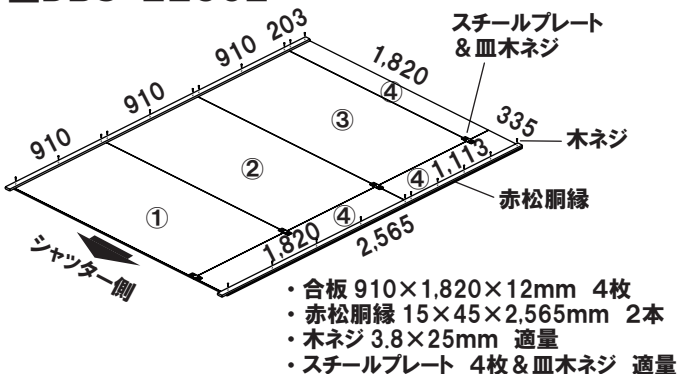
■DBS-2226L



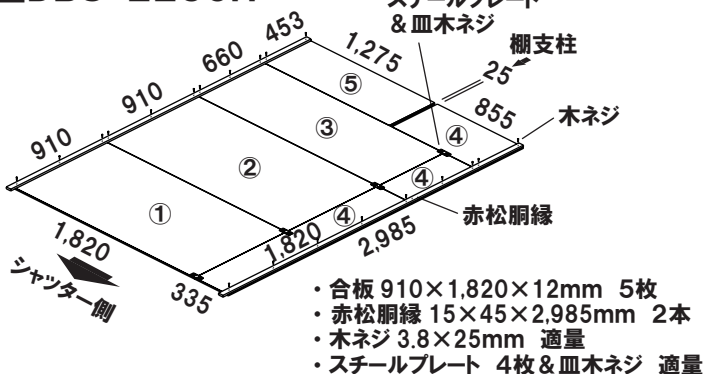
■DBS-2226H



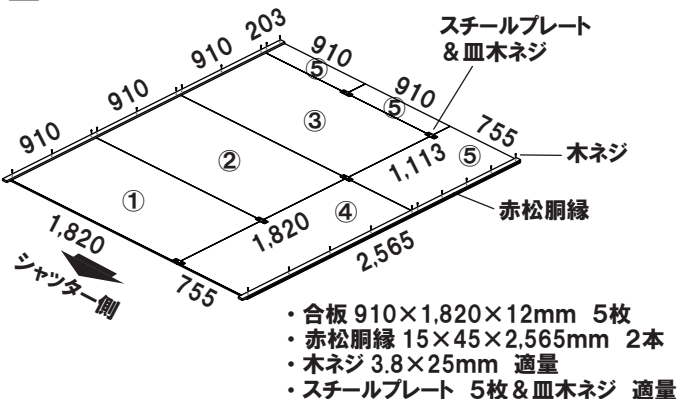
■DBS-2230L



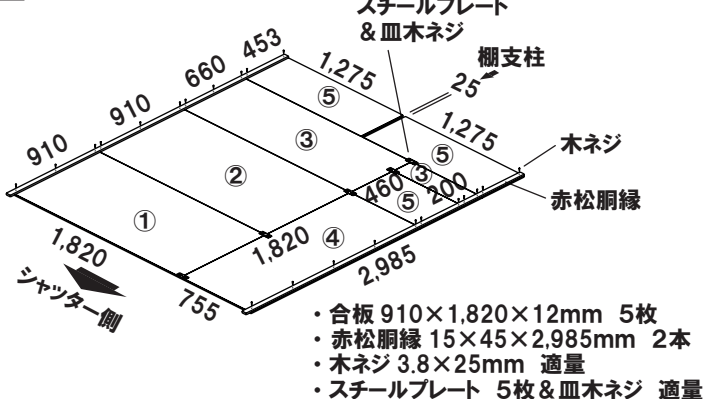
■DBS-2230H



■DBS-2630L



■DBS-2630H



内装DIY施工例<壁編>

■OSB材の壁板張り(全面を覆う方法) <DBS-1830Hの場合>

※詳細はブログをご覧ください。

難易度:★★

丸ノコ、インパクトドライバー等の電動工具があれば比較的簡単に施工が可能。
壁パネルとOSB材の間に空気の層ができるため断熱効果アップ。
棚部は、切り欠きを入れることで施工可能ですが、棚の高さを変えられなくなります。

材料を調達



ホームセンターで材料を購入。

・OSB材	910×1,820×9mm	9枚
・米松桟木	25×50×4,000mm	18本
・木ネジ	2.6×25mm	適量

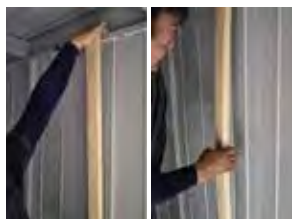
柱は長めのボルトで固定する方法もありますが、今回ははめ込み方法をご紹介します。

柱カット & 組付



壁パネルの内寸を測り(参考:2,098mm)、その長さに米松桟木6本をカットします。

カットした柱の両端を両面取りします(5mmほど)。
この面取りは壁パネルの鉄板重なり部の逃がしと、入れやすくするためです。
壁パネル1枚に対し、柱1本を立てていきます。



ここからは**手を挟まないようにご注意ください。**
柱の立て方は、まず下を差し込み、上を押さえた状態で柱の中央を弓のように引き、上をはめ込みます。力技です。

柱の復元力で突っ張る感じです。
復元力で柱自体が自立していればOK。残りの柱も同様にはめます。

壁板カット & 組付



各壁パネルに柱をセットし、OSB材を立て掛けます。
OSB材1枚目の端面が柱の中心になるように野書き線を入れOSB材をカット。

柱の中心でカットすることにより、OSB材のつなぎ目での段差が無くなります。



カットしたOSB材1枚目を木ネジで柱に固定します。この時の木ネジは柱25mm+OSB材9mm=34mm以内に。(オススメは25~30mm)
インパクトドライバーで勢いよく締めすぎて、壁パネルに貫通しないようにご注意ください。

2枚目も同様に立て掛け、固定します。
棚部は事前に棚の高さを決定し、寸法を測ってカットしてください。

完成!



DBS-1830Hの右面(棚板手前まで)施工しました。
高さはOSB材の寸法1,820mmですので、壁の上部まで全て施工する場合は材料の追加が必要です。

この壁張り方法は、棚板の高さを完全に固定する場合の施工方法です。

内装DIY施工例<壁編>

■OSB材の壁板張り(壁パネルにはめ込む方法) <DBS-1830Hの場合>

※詳細はブログをご覧ください。

難易度:★★★★

柱の数が多く、OSB材のカットや切り欠きがあり、難度は上がるが、棚板エリアを含めた全面に施工が可能。壁パネルとOSB材の間に空気の層ができるため断熱効果アップ。モーターサイクルショーで展示したガレージもこの方法です。

材料を調達



ホームセンターで材料を購入。

・OSB材	910×1,820×9mm	9枚
・赤松胴縁	15×45×2,985mm	36本
・木ネジ	2.6×20mm	適量

壁パネル1枚に対し柱が2本です。

柱カット & 組付



壁パネルの内寸を測り(参考:2,098mm)、赤松胴縁36本をカット。本数が多いためホームセンターのカットサービスをご利用ください。

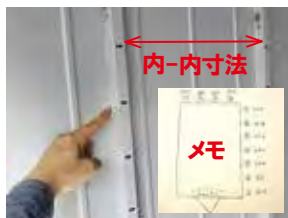
カットした柱の両端を片面取りします(5mmほど)。この面取りは壁パネルの鉄板重なり部の逃がしのため。面取り作業は、数が多かったため電動トリマーで作業しました。



柱の立て方は、まず下を差し込み、上を押さえた状態で柱の中央を弓のように引き、上をはめ込みます。**手を挟まないようご注意ください。**柱の復元力で突っ張る感じです。

同様に壁パネル1枚に対し、柱を2本ずつ立てます。復元力で柱自体が自立していればOK。残りの柱も同様にはめします。

壁板カット & 組付



次にOSB材をカットします。壁パネルの内-内の寸法を測ります。(画像参照) **必ず各壁パネルの内-内の寸法を測ってください。特にシャッター側1枚目、2枚目やオプションのパネルを入れている場合は寸法が異なります。**

寸法をメモにとり、カットしたパネルごとに番号を付けておくことをオススメします。



壁パネルを固定しているネジ板とボルト部分は、画像のように切り欠きます。ノコギリとノミを使用。(切り欠き部分の寸法は次ページ参照)

カットしたOSB材を順にはめ、木ネジ2.6×20mmで柱の中央めがけて固定します。木ネジは金色がオススメ、OSB材だと木ネジが目立ちません。**インパクトドライバーで勢いよく締め込んで壁パネルを貫通させないようご注意ください。**

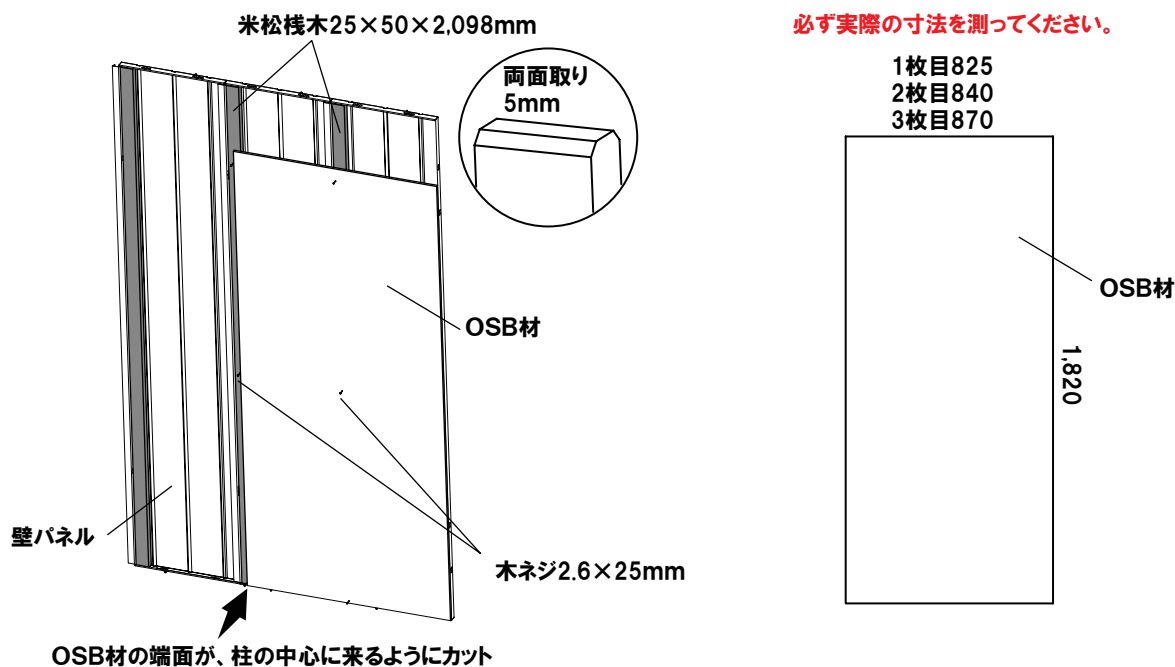
完成!



同様に残りの取り付けます。壁の上部まで施工する場合は、材料の追加が必要です。**この壁板張り方法は、奥の棚板エリアにも使える方法です。壁板が付いた状態で棚板の高さも変更可能。**

ガレージオプションのヘルメットラックやミニラック等もそのまま使えます。少々手間ですがオススメです。

■OSB材の壁板張り(全面を覆う方法)参考寸法図【P4掲載】



■OSB材の壁板張り(壁パネルにはめ込む方法)参考寸法図【P5掲載】

